

8. 金銅装頭椎大刀^{こんどうそうかぶちのたち}

■ 指定日

昭和56年3月24日

■ 種別

兵庫県指定有形文化財 考古資料

■ 年代

古墳時代後期

■ 所在地

朝来市山東町大月 埋蔵文化財センター

■ 所有者

朝来市



■ 内容

長尾古墳そばで耕作地の開墾中に発見された。長尾古墳は、筒江集落の西方丘陵の横穴式石室を内部主体とする円墳である。墳丘規模は不明。

把頭の大部分と鞘尻の金具は復元したものであるが、他の部分は比較的良好に原形をとどめている。把頭には畦目と呼ばれる溝があり、径約8mmの懸通孔が残っている。鐔は6穴透かしの倒卵形である。さらに足金具と責金具の下には、心葉形に唐草文を透かし彫りした金具を飾っている点に仏教の影響が表出している。これらの形態的特徴より、古墳時代後期、6世紀から7世紀に製作されたものと推定される。全長104cm。